

12月議会
定例会令和7年産米の
一等米比率は97・9%

12月議会定例会が、12月10日から13日までの4日間にわたり開催され、条例の一部改正や令和6年度各会計補正予算案などの11議案が提案、可決されました。



行政報告

◇令和6年産米の集荷状況について

J A あきた白神藤里営農センターの11月6日現在における集荷実績によりますと、30 kg単位での契約数量62, 277個に対し、集荷実績は53, 610個で、集荷率は86・1%と昨年の84・1%よりアップしたものの、平年並みに届かず、前年産米の在庫不足による、他業者との集荷競争が影響しているようでありま

す。また、県北地区の作況指数は103の「やや良」という結果となり、当町の1

等米比率は、天候に恵まれた事もあり、97・9%と前年の記録的猛暑に比べて55ポイント回復し、平年以上の比率となりました。

◇令和7年産米の需要見通しについて

10月30日に公表されました国の基本方針のなかで、農林水産省が全国における主食用米の適正生産量を683万トンと発表しました。これを受けまして、秋田県では、全国生産量における県産米シェア率や、適性在庫量、直近の販売状況を踏まえ、「県全体の生産の目安」を41万9千トンと決定しております。面積にして7万2千617ヘクタールと、24年産の生産の目安と、比較して1万7千700トンの増となりましたが、基本的な考

えである主食用米から飼料用米並びに高収益作物への転換を推進するという方針は変わっておりません。

なお、町の生産数量につきましては、現在、農林課で算定作業を進めており、結果を町農業再生協議会に提示することとしております。

その後は、方針作成者であるJ A の米販売予定数量と調整しながら、協議会臨時総会の決定を経て、1月頃に「町の生産の目安」として公表する予定であります。

◇畑作物等の生産・販売状況について

10月末現在、ネギの生産量は目標の45・50トン、17, 490千円に対して、37・28トン、14, 832千円となりました。出荷量は、秋冬ネギへの移行もあり、81%の実績であります。品質管理の徹底により、高品質の出荷実績を残せたことと、市場単価が高かったことは、好条件でありましたが、今年から作付を開始した、基盤整備のほ場では、生育不良により、売上高は84%の実績となりました。

ネギを除く青果物につきましては、目標の5・21トン、4, 917千円に対し、6・36トン、6, 622千円と135%の実績であります。このことは、天候等の影響を受けづらい、山うどなどのハウス栽培の品目が比較的順調だったことによるものと考えております。

リンドウは、10月末までの販売において、出荷本数195, 345本、販売金額9, 552千円で、昨年と比較して本

数で104, 450本、販売額で6, 12千円の減となりました。出荷本数及び販売額の減少となった要因として、リンドウ農家の規模縮小やリンドウ5年目を超える株が増えたこと、秋彼岸に向けての晩生品種が、長雨の影響で、葉枯病及び黒斑病が発生し収量が減少したこと、天候により生育が前倒しとなったことにより、お盆時期に花が残らなかったこと、当町の出荷のピークが、市場単価が安値の時期になったことが上げられます。

畜産につきましては、子牛の市場価格が、物価高騰の影響で、肥育農家が子牛価格を抑えようとする動きが続いており、全国的に低価格となっている状況にあります。価格の下げ止まりは、当面続くものと思われま

◇有害鳥獣被害対策について

す。

昨年度、異常出沒となったツキノワグマは、今年度は比較的落ち着いているようであり、「ツキノワグマ等情報マップシステム」通称「クマダス」へ寄せられた出沒情報は、当町では10件となっております。11月1日には、「ツキノワグマ出沒警報」から「ツキノワグマ出沒注意報」に発令が切り替えられているところ

であります。当町では10月11日までに5頭の捕獲処理をいたしました。ニホンザルの被害は、今年は複数の群れが各所に出没しており、農作物への被害も多数出ているようであります。捕獲については